

本校の歩み

昭和 22. 4.29	宮城村立宮城中学校開校 宮城小学校第二校舎において授業開始
昭和 23. 1.22	新校舎へ移転、26 日、落成式挙行
昭和 32.11.25	校歌選定
昭和 32.12.27	全村民の奉仕による校庭整地と拡張工事実施
昭和 41.11.20	学校体育館完成、23 日、落成記念式典挙行
昭和 52.11.20	東校舎（普通教室棟）落成
昭和 54.11.21	日本 P T A 全国協議会より表彰を受ける
昭和 58. 3.28	特別校舎増改築落成式
平成 3. 3.28	立翔の塔建立
平成 12. 8.	東校舎耐震・外壁塗装工事
平成 13. 8.	東校舎前面改修工事
平成 14. 2.	太陽光発電設備設置
平成 14. 3.	学校体育館改修工事
平成 16.12. 5	宮城村が前橋市と合併、前橋市立宮城中学校となる

生徒数(人) 5月1日現在

学年	組	男	女	計
1 年	A組	13	15	28
	B組	15	14	29
	計	28	29	57
2 年	A組	18	16	34
	計	18	16	34
3 年	A組	15	13	28
	B組	15	13	28
	計	30	26	56
特別支援学級	E組	1	0	1
	F組	3	0	3
	計	4	0	4
合 計		80	71	151

令和 6 年度教職員

学年・学級・役職等		担当教科	主な分掌担当
校 長			
教 頭			
教務主任	E・F組副担任	1・2年数学	教育実習・清掃主任
1 年	A組担任	1・2年国語	生徒指導主事・図書主任
	B組担任	1・3年理科	部活動主任・安全主任・道徳主任
	学年主任	1・3年社会	1学年主任・人権主任
2 年	A組担任	1~3年保体	体育主任・生徒会後期
	学年主任	1・2年英語	2学年主任・研修主任・学力向上Co
3 年	A組担任	3年数、2年理	教育相談主任・生徒会前期・総合主任
	B組担任	1~3年保体	情報主任・特活主任・教育相談
	学年主任	3年英語	3 学年主任・充実指針担当
	副担任	1~3年音楽	進路指導主事・環境主任
	副担任	1~3年美術	給食主任・食育・生徒会会計
特別支援学級	E組担任(2副)	2年社会	拾得物・学警連
	F組担任(1副)	3年国語	特支Co・保健主事
技術科(小規模中学校教科指導充実)		1~3年技術	
家庭科(小規模中学校教科指導充実)		1~3年家庭	
担任外	スクールカウンセラー	技士長	学習サポーター
	養護教諭(育休補)	嘱託用務技士	オープンドアサポーター
	事務主任	図書館業務従事職員	校務補助員
	英語指導助手	スクールアシスタント	養護教諭(育休)

お世話になっている方々

役職等		役職等	
P T A 本部	会長	学校運営協議委員	
	副会長		
	副会長		
	書記		
	会計		
	会計		
自治会長	顧問	校医	
	鼻毛石町		内科
	柏倉町		外科
	市之関町		婦人科
	三夜沢町		耳鼻科
	苗ヶ島町		眼科
	馬場町		皮膚科
	大前田町		歯科
			薬剤師

部活動

部活動名
野球
女子バスケ
女子バレー
男子テニス
女子テニス
女子卓球
サッカー
陸上・駅伝
剣道
文化



令和 6 年度 学校要覧

自学自習・自主自立・協力共助



宮城中学校 校歌

宮城中学校選定歌詞

齊藤孝弑 補作詞

井上 武士 作曲

一 大いなれ

ふるさとの 我が母校

宮城野は ゆたかにひらけ

めぐりゆく 清き川

丘の上に 立つ学舎よ

朝な夕な 我ら学ぶ

この大き よろこび

前橋市立宮城中学校

〒371-0244 前橋市鼻毛石町 1564 番地 1
電 話 0 2 7 - 2 8 3 - 2 3 2 6
FAX 0 2 7 - 2 8 3 - 1 8 6 2



宮城中の教育

～宮城中プライド～

＜学校教育目標＞

高い知性と豊かな情操を持ち、自他の生命を尊重し、常に真理や正義とともに郷土と文化を愛し、健康でたくましく、活気に満ちた実践力のある生徒を育成する

＜目指す生徒像＞

自学自習 自主自立 協力共助

＜目指す教師像＞

- 学力向上を目指して、一人一人のよさを生かし、個性を伸ばす教師（姿勢）
- 温かい学級経営を基盤とし、規律正しい集団形成を実現する教師（信頼）
- 生徒・保護者・地域に学び、それぞれの願いを大切にす教師（受容・共感）

経営方針

＜基本的方針＞

教職員・生徒ともに、それぞれの個性と特性が融合した活力と調和のある学校経営を推進する。

また、「信頼される学校」「地域とつながる学校」「特色ある学校」を基本理念として推進する。

さらに、「ありがとう」の集まる学校＝感謝の言葉が行き交う学校づくりを目指し、生徒・保護者・同窓生・地域の人々にとって「誇れる我が母校」となるように諸活動の実践に努め、「郷土と文化を愛し、活気に満ちた実践力のある生徒」を育成していく。

＜具体的方針＞ ほんの少しの工夫と努力

これまでの財産を生かしながら、少しの工夫を加え改善を図る。

- (1)教職員 和を大切にし、組織的な対応をする
- (2)生徒 自己存在感・自己肯定感・自己有用感を育む。
- (3)保護者・地域 生徒の良さを伝え信頼を築く

方策1：教職員の和を大切にし、組織的な対応をする

- ①学年主任を中心に生徒の3年間の学びや成長について共通理解を図りながら教育活動を進める。
- ②仕事は一人で抱えず、互いに声をかけながら進める。
- ③次の人への引き継ぎを考えて記録を残すとともに、改善点なども分かるようにしておく。
- ④報告・連絡・相談＋結果の確認を徹底し、知らなかったということがないようにする。
- ⑤日常の会話（情報交換）を大切にする。
- ⑥生徒指導は組織的（生徒指導主事を中心として）に行い、複数で対応する。SCやODS等の専門性を生かしたり、外部機関との連携も視野に入れたりする。
- ⑦生徒指導に関して記録をこまめに残す。
- ⑧危機意識をしっかり持ち、危険を感じ取ったらそのままにせず指摘や相談し、早期に組織的に対応する。
- ⑨国・県・市の指針やガイドラインに則り、働き方改革を推進し、仕事の絶対量を減らす。

方策2：生徒の自己存在感・自己肯定感・自己有用感を育む

学校生活の様々な場面で生徒の活動や発言を保証するとともに、良さを発見し認めていく。

○学習指導 生徒に学ぶ楽しさを実感させる。

- ①「めあて」と「振り返り」を明確にし、生徒が見通しを持って取り組める授業を実践する。
- ②文字と言葉だけに頼らず、タブレットや学習補助ソフト等（ICT）を積極的に活用し、理解の困難さに配慮した（合理的配慮）ユニバーサルデザインの授業や個別最適化・協働学習を意識した授業を実践する。
- ③主体的・対話的で深い学びを保証する授業を実践し、思考力・判断力・表現力を育てる。
- ④「理解する」と「できる」ことの違いを認識し、「できる」ようになるための手立てを講じ、基礎学力の定着を図る。
- ⑤身に付けた知識や技能について、実生活で活用したり社会の一員として自分の将来に役立たせたりする活動（キャリア教育）を実践する。
- ⑥道徳・学活・総合的な学習・学校行事等での話し合い活動や体験活動を大切にし、生徒のよさを認める。（心理的安全性のある学校・学年・学級）

○生徒指導 生徒の居場所を保証し安心感を持たせる。

- ①生徒を恫喝したり、感情的な指導をしたりしない
- ②事件や事故の場合、「何してるんだ！」ではなく「大丈夫か？どうした？」から始め、状況をできるだけ客観的に捉えるとともに、当該生徒の話を丁寧に受け止める。
- ③指導は説諭を基本とする。一度の説諭で生徒の態度が変化することは少ないが、辛抱強く感情的にならずに行う。
- ④全ての問題行動が因果関係で説明できるわけではないことを認識し、「何で」という質問で追い詰めすぎない。
- ⑤④の場合、問題行動を回避するための具体的な行動を考えさせる。
- ⑥生活の様子や生活記録ノート・アンケート調査等から、生徒の悩みを早期に把握し、対応する。
- ⑦学級経営・学年経営・授業経営・部活動経営において、互いの良さを認め合い励まし合える集団づくりを通して、思いやりの気持ちを醸成する。

方策3：保護者・地域へ生徒の良さを伝え信頼を築く

生徒の良さを発信することで、家庭や地域を学校の協力者（応援団）にする。

- ①様々な機会を捉えて、保護者に生徒の学校での頑張りを伝える。
- ②トラブルがあったときは必ず家庭に連絡をする。事実と学校の対応を客観的に伝える。否定的な表現はしない。良い面も伝える。
- ③学校行事を積極的に公開し、生徒の頑張る姿を見せる。
- ④地域行事のボランティアに積極的に参加することで、生徒の活動する姿を通して、生徒の頑張りを地域や保護者に伝える。
- ⑤学校通信や学年通信を通して生徒の良さを家庭や地域に発信する。

方策4：『まえばし学校教育充実指針』との関連

- ① 学校課題の解決に向けたチーム学校としての指導体制の構築と取組の推進
 - ・学校課題に応じた組織づくりと具体的な取組状況の「見える化」
 - ・スクールカウンセラーやALT等の専門性を生かした校内研修の実施や学習サポーター等を活用した指導体制の工夫及び教材研究の時間の確保
- ②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の推進
 - ・「驚き・疑問・矛盾」を感じられる資料提示による学習課題づくり
 - ・知識・技能を確実に身に付ける場面とそれを活用して課題解決を行う場面を明確にした単元・題材の指導計画の作成
- ③ 自己の役割を自覚し、最後までやり抜く態度を育てる活動の推進
 - ・係や当番活動などにおける役割の自覚や互いに認め合う場の設定
 - ・活動の振り返りの設定と保護者や地域の方活動成果を発表する場の設定